



2026年5月13日

各 位

会社名 株式会社ハークスレイ
代表者名 代表取締役会長兼社長 青木 達也
(コード番号：7561 東証スタンダード市場)
問合せ先 管理部長 中野 雅哉
(TEL. 06(6376)8088)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（アップデート）

当社は、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取組み方針について、現状を分析・評価したうえで今後の企業価値向上に向けた取組み方針を策定し、2024年6月3日にお知らせいたしました。

2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）連結業績を踏まえ、上記取組みの自己評価・中期経営目標の進捗・今後の取組みをお知らせいたします。

詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（アップデート）」をご覧ください。

以 上

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について (アップデート)

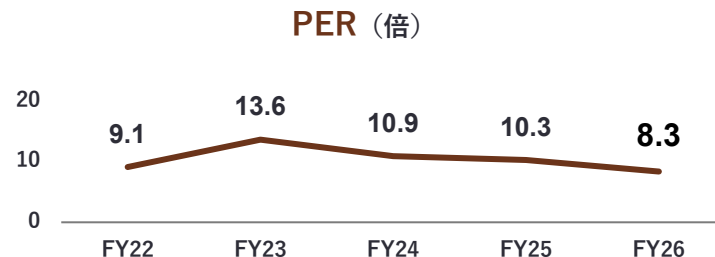
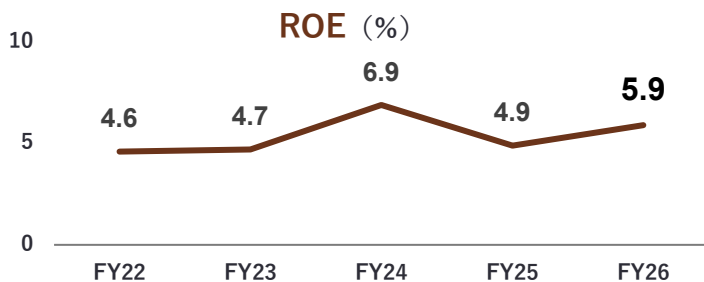
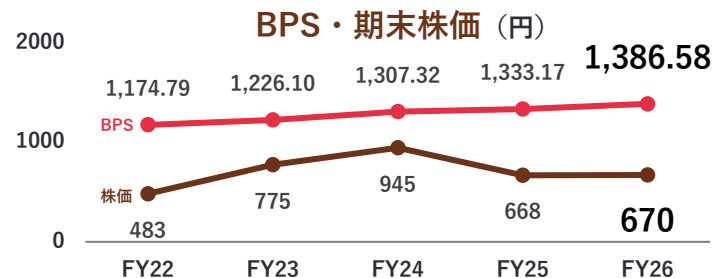
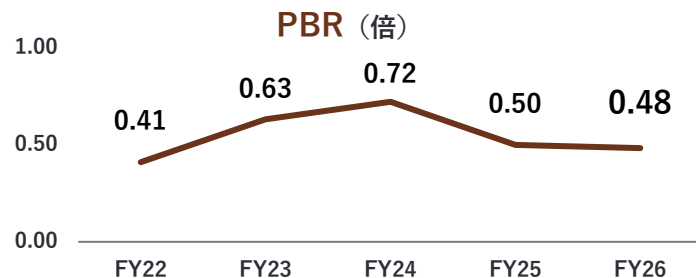
東証スタンダード 7561

株式会社ハークスレイ

2026年5月13日

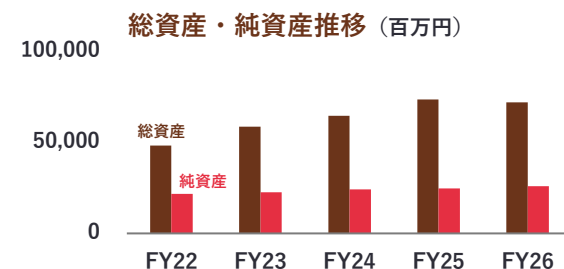
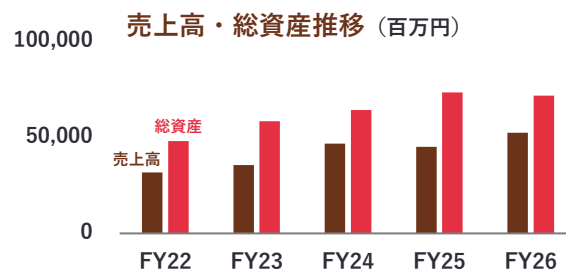
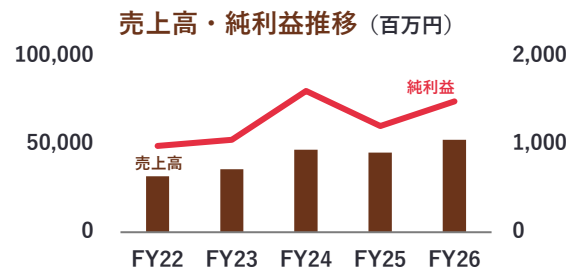
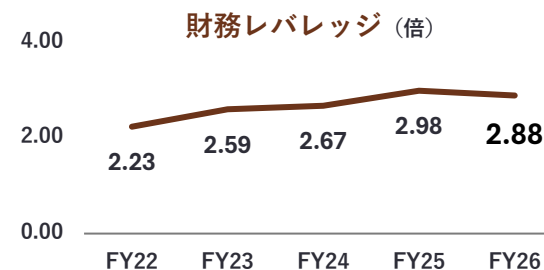
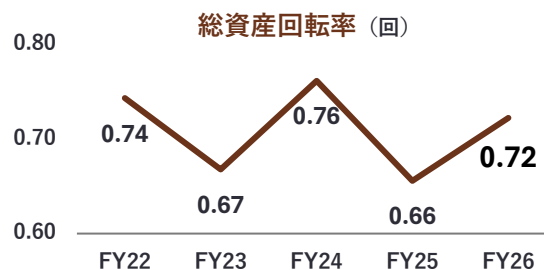
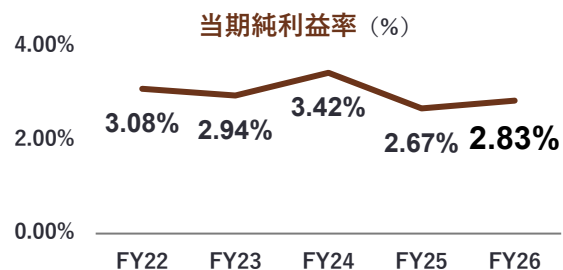
現状分析と評価 - ①

- ✔ 当社の最近5年間のPBR（株価純資産倍率）推移は、FY24（2024年3月期）の0.72倍を最高に、FY25（2025年3月期）0.50倍、FY26（2026年3月期）0.48倍と下降傾向となっている。
- ✔ 2026年3月期決算は、売上高及び営業利益、経常利益は過去最高額をそれぞれ更新し成長軌道を描いているが、業績の安定性（ダウンサイドリスク）に対する投資家の懸念及び、成長戦略が浸透しておらず評価の獲得に至っていないことで、最近5年間のPER（株価収益率）はFY23（2023年3月期）の13.6倍を最高に、下降傾向にある。
- ✔ ROE（自己資本利益率）は、アップダウンがあるものの改善傾向にある。
- ✔ BPS（1株当たり純資産）は、継続した純利益の積み上げにより上昇傾向にあるが、株価は近年の株式相場の不安定さも相まった評価となっており結果、PBRも低調に推移している。
- ✔ 株主資本コストを超える資本収益性（ROE）を達成できておらず、その結果、投資家から十分な評価が得られていない可能性がある。



現状分析と評価 - ②

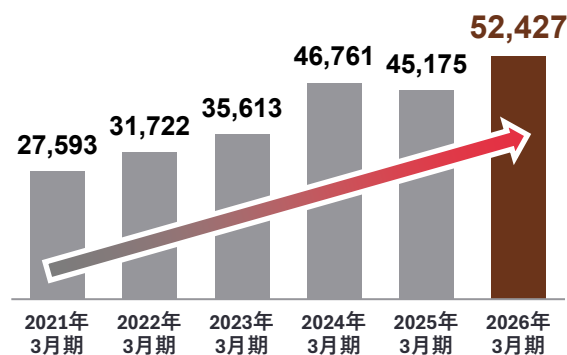
- ✔ 当社の株主資本コストは、2024年6月発表の「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取組み方針について」及び「中期経営目標策定（2028年3月期最終年度）」発表時に8%前後と想定。
- ✔ 前述の想定値より、2028年3月期中期経営目標最終年度にROE8.3%を掲げたが、FY25（2025年3月期）の4.9%からFY26（2026年3月期）は5.9%と1ポイント改善するが、想定資本コストを上回ることが出来ていない。
- ✔ ROEを「当期純利益率」、「総資産回転率」、「財務レバレッジ」に分解してみると、「当期純利益率」と「総資産回転率」に課題。
- ✔ 持続的成長への競争力確保のためにM&Aを手段として、新規事業領域の拡大と事業ポートフォリオの変革に挑戦し、「稼ぐ力」は向上。
- ✔ 「のれん償却費」の負担が「当期純利益」、「当期純利益率」、「EPS（1株当たり当期純利益）」に影響を与えている。
- ✔ 総資産回転率は、事業領域の拡大に合わせ無形固定資産（のれん）と事業用資産が増加傾向にあること、また不動産売却による資産圧縮が総資産回転率に影響を与えている。



連結業績推移 (単位：百万円)

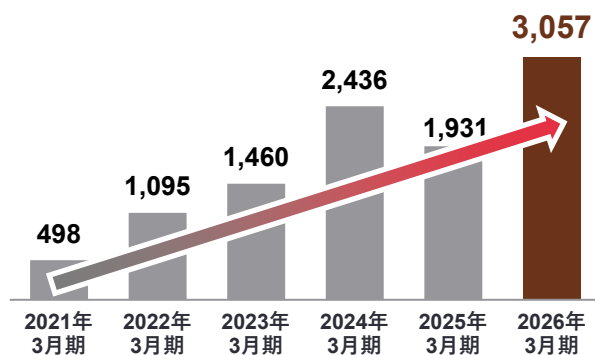
売上高推移

CAGR **13.7%**



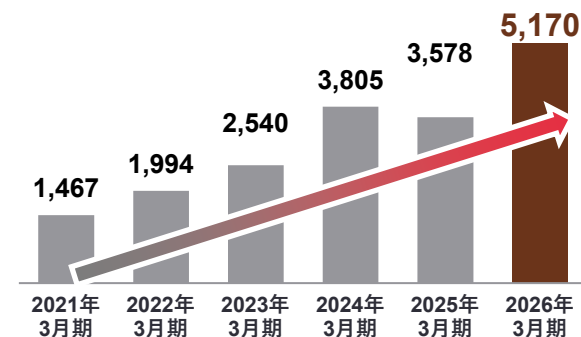
営業利益推移

CAGR **43.8%**



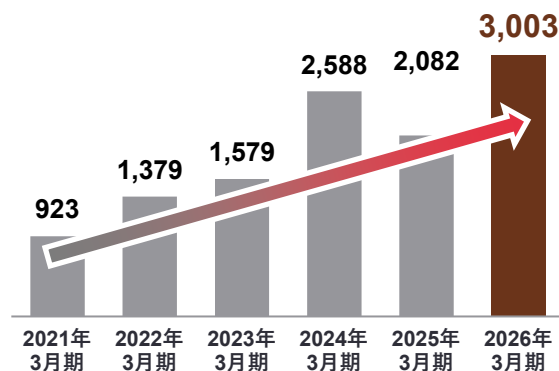
EBITDA推移

CAGR **28.7%**



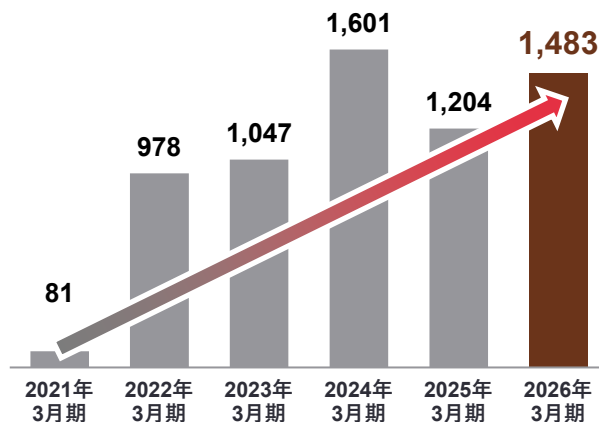
経常利益推移

CAGR **26.6%**



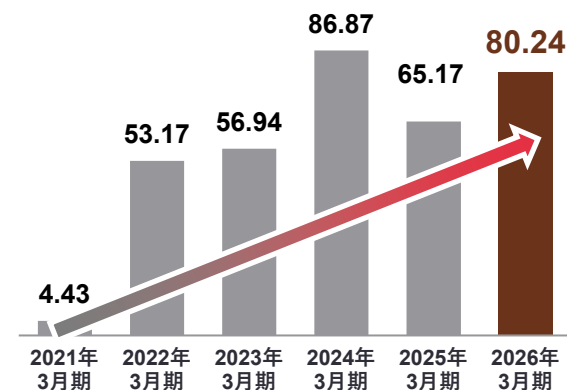
当期純利益推移

CAGR **78.9%**



1株当たり
当期純利益
推移 (円)

CAGR **78.9%**



ありたい姿（長期ビジョン）

ありたい姿（長期ビジョン）

食料の生産、加工、物流および消費に関わる一連の活動をプロデュースする企業グループ（食のインテグレーション企業）



サプライチェーン全体で利益を創出・負けない経営の構築

より付加価値の高い**上流に事業シフト**

(材料調達、加工・製造から販売までの一貫したフードバリューチェーンの構築)

食の領域において、収入源の分散によるリスク軽減と収益の安定化を図り、新たなシナジーと成長機会を創出するため、

異なる業種の複数の事業を傘下に持ち、事業を組み替えながら多角的に経営を行う

複合経営（コングロマリット経営）にて持続的に成長を図り、**株主価値の最大化**を目指す

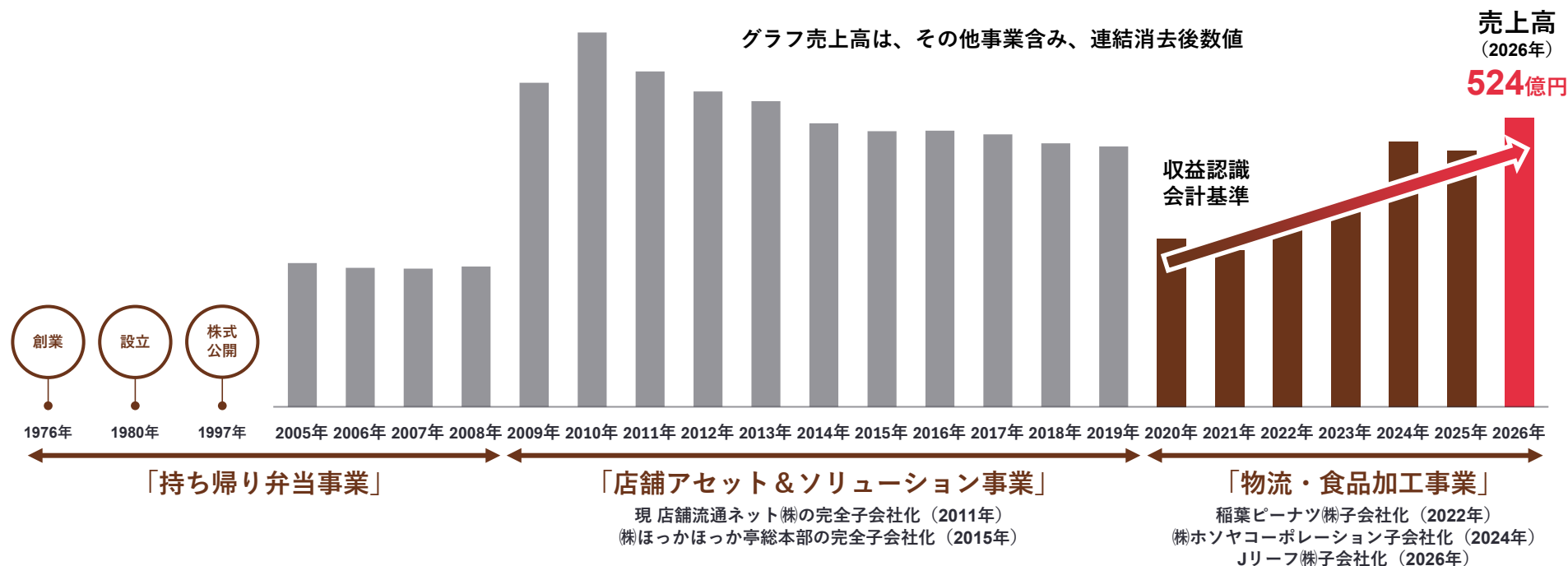
目指すべき姿（ハークスレイグループエコシステム）

当社は、ロールアップ戦略ではなく、所謂コングロマリット化戦略による事業の分散化、多角化、事業の組み合わせで経営全体の安定と成長を図ってきた。今後も複数の事業の可能性を張り、更なる企業価値向上に挑む。

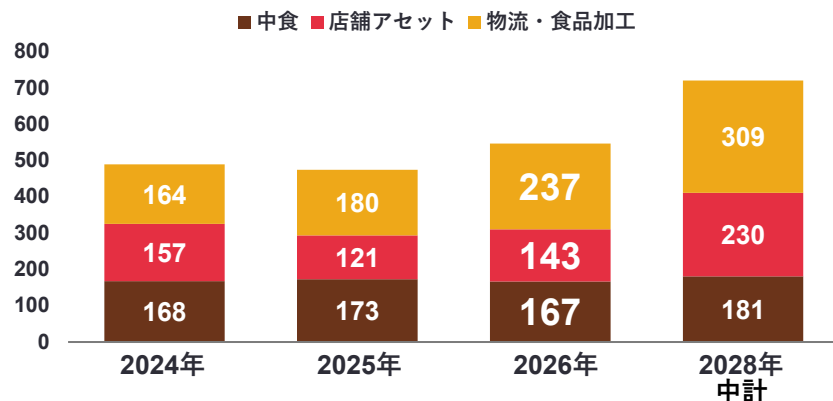
多様な事業を持つ強みを最大限に生かしイノベーションを起こし、全体として大きな価値を生み出す



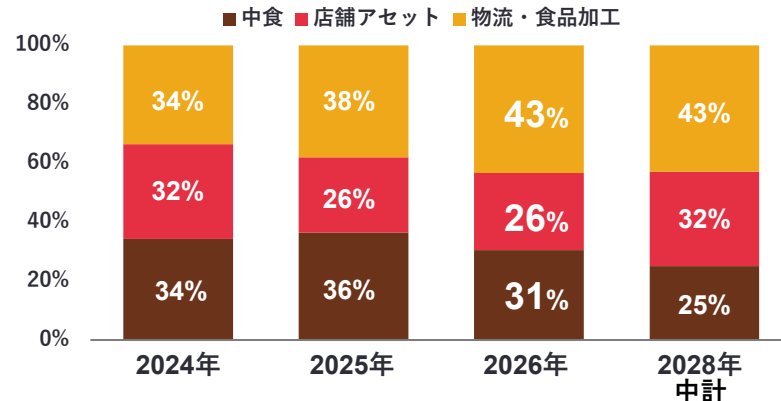
価値創造に向けての歩み



セグメント別売上高推移 (億円)



セグメント別売上高構成比推移 (%)



M&Aの実行（トラックレコード）



持ち帰り弁当
2015年完全子会社化

店舗リース他

ケータリング

食器レンタル・
パーティー用品レンタル

中食事業

店舗&アセット
ソリューション事業

中食事業

店舗&アセット
ソリューション事業



製菓・製パン向け
POSシステム

豆菓子・ナッツ

ほしいも
ドライフルーツ

中華総菜

人工光型植物工場
野菜生産及び販売

店舗&アセット
ソリューション事業

物流・食品加工
事業

物流・食品加工
事業

物流・食品加工
事業

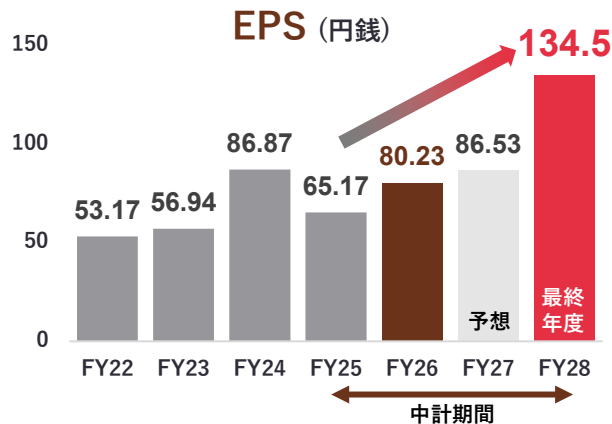
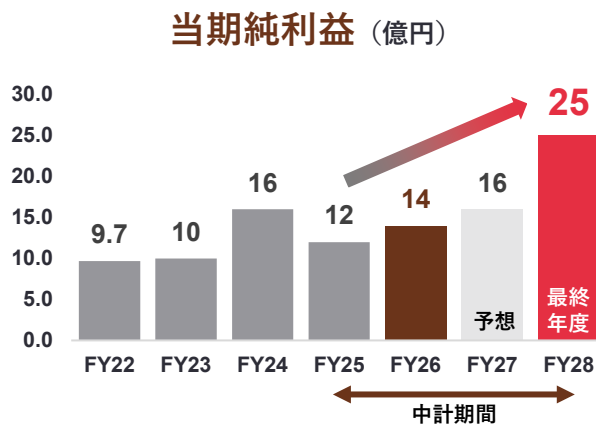
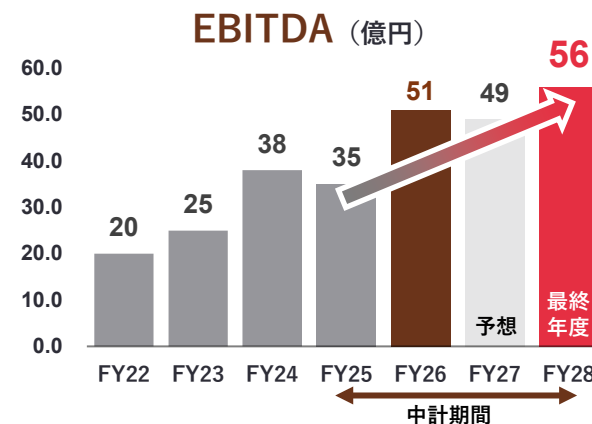
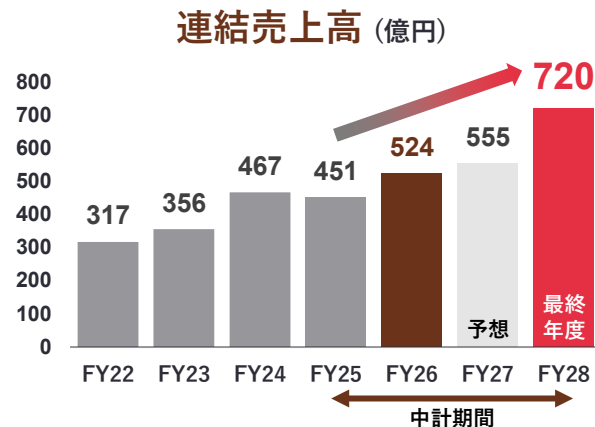
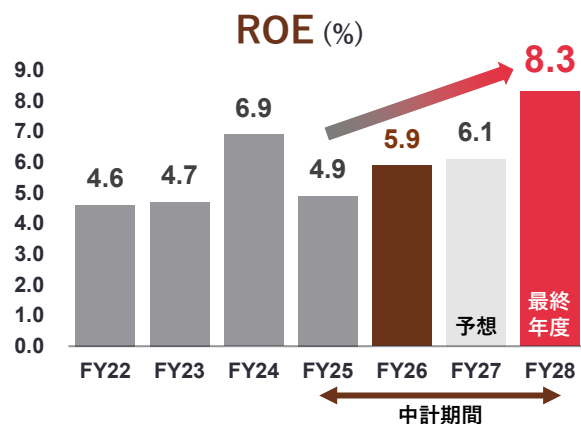
物流・食品加工
事業

中期経営目標・基本方針

中期経営目標（2028年3月期最終年度）では、「成長投資による事業領域（ポートフォリオ）を拡大することで「事業の成長」と「収益拡大」により企業価値を高め持続的成長を目指す。」という基本方針のもと、

「物流・食品加工事業」を中心に積極投資することで、経営基盤の強化（足場固め）による利益拡大をテーマに

2028年3月期末にROE8.3%、売上720億円、EBITDA56億円、当期純利益25億円、1株当たり当期純利益（EPS）134.5円という経営目標を立てました。より稼ぐ力をつけ、収益力を向上させ中期経営目標の達成に向けて取り組んでまいります。



中期経営目標（セグメント別）

成長投資により、物流・食品加工事業の売上構成割合の拡大

（ ）内：売上高構成比

◆ 中食事業：

「収益力の安定と拡大」グループ内シナジー、業務提携等による成長

2024年3月期実績：**169**億円（34%）→2026年3月期実績：**167**億円（30.6%）→2028年3月期計画：**181**億円（25%）

- 新メニュー開発による新規顧客層（Z世代）の開拓
- デジタル販促の積極的実施
- 産地直送、直取引等

◆ 店舗アセット&ソリューション事業：

「収益基盤維持・拡大」社内リソース活用、業務提携等による成長

2024年3月期：**158**億円（32%）→2026年3月期実績：**143**億円（26.1%）→2028年3月期計画：**230**億円（32%）

- ストック収入の拡大
- 店舗運営の多面的ソリューションの提案
- サービス業における人材不足問題に対応した特定技能外国人就労支援等・人材紹介ビジネス等

◆ 物流・食品加工事業：

「重点成長・戦略的育成（将来の成長ドライバー）」既存事業の安定的成長、M&A等による成長

2024年3月期：**165**億円（33%）→2026年3月期実績：**237**億円（43.3%）→2028年3月期計画：**309**億円（42%）

- 販売好調な定番商品の一層の拡大（販売先、受注数）
- OEM製造受託・カミッサリー事業の売上拡大
- 販路のグループ会社相互活用、製造・物流拠点の多角化
- 継続的なヒット商品の開発等

中期経営目標（財務戦略）

株主還元

1株当たり当期純利益（EPS）の伸長に合わせ、現金配当につきましては、**前年を下回らない増配を目指す**

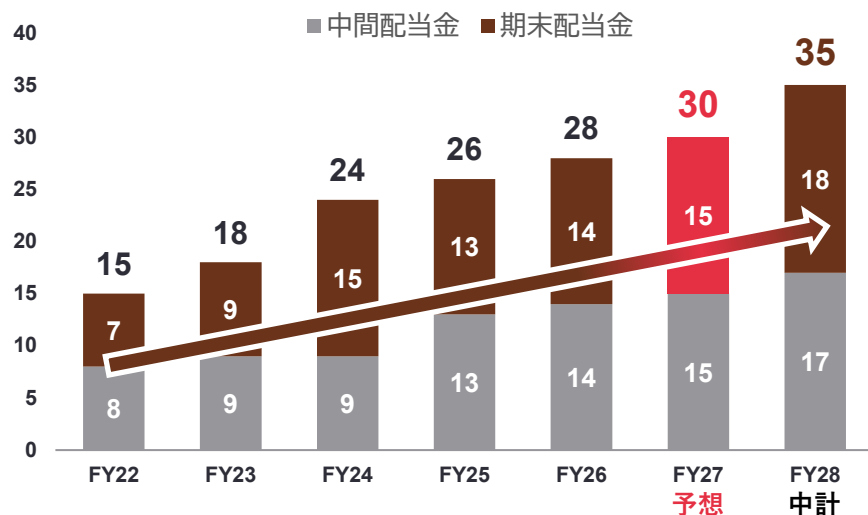
自己株式の取得

資本水準や株式市場環境及びROE, EPSの伸長等への効果を総合的に勘案し**機動的に実施する方針**

キャッシュ・フロー・アロケーション

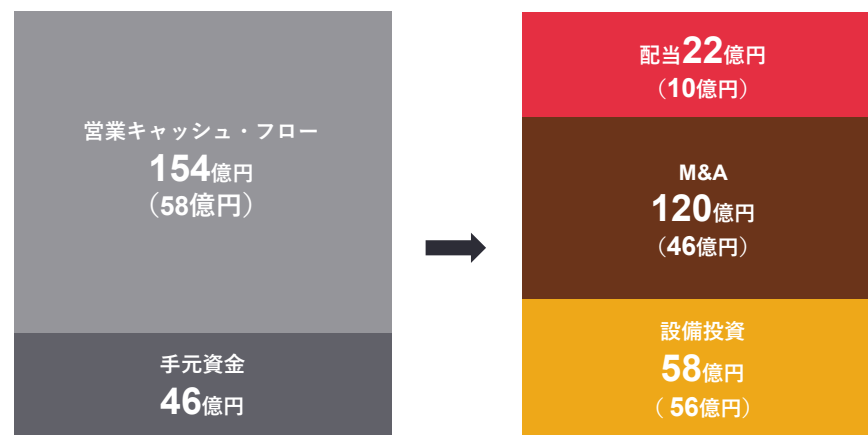
中期経営目標 **4**ヶ年（2025年3月期～2028年3月期）で、営業キャッシュ・フロー**154**億円と手元資金を、株主還元**に22**億円、成長投資**に178**億円（M&A **120**億円、設備投資等 **58**億円）程度を振り向け

株主還元：配当推移（単位：円）



キャッシュ・フロー・アロケーション

2025年～2028年の累積計画（2025年～2026年累積実績）



() 内実績値は、連結キャッシュ・フロー計算書より

今後のPBR向上に向けた取り組み

- ☑ 「経営効率化」と、「競争力強化のための成長加速」の両輪で、資本コスト（8%前後：2024年想定）を上回るROEを獲得する。中期経営目標の8.3%をメルクマールとし、次に9%~10%程度を超すROE達成に向けて取り組む。

試算値：ROE 9% (5.9%) = 当期純利益率 3% (2.88%) × 総資産回転率 1回 (0.72回) × 財務レバレッジ 3倍 (2.88倍)

※ () 内2026年3月期
- ☑ 収益性向上のために、既存事業の営業利益率改善を一層進める。
- ☑ アセットライト（不動産売却など）による総資産回転率向上を一層進める。
- ☑ 財務レバレッジを最大限活用するが、過度なレバレッジは金利上昇による調達コスト増と財務健全性に懸念が生じることに繋がるため、成長投資を行いながらリスクの許容が出来る株主資本水準を設定し、成長投資資金の確保と資本効率のバランスを高める（最適資本構成）。
- ☑ 持続的にEPS（1株当たり利益）を積み上げる力を向上させる。
- ☑ 計画の確度向上と計画達成のための具体的施策により、実績との乖離を少なくし、投資家の信頼感を高める（予測可能性の向上）。
- ☑ PER向上による株式市場の評価獲得
 情報提供機会を拡充し、投資家の皆様へ当社の成長性の理解促進を図り成長期待感を醸成

主な取り組み

- ホームページのIR情報更新と、定期的な見直しによる鮮度向上
- Webメディアログミーへの、継続的決算説明会書き起こしログ掲載
- フィスコアナリスト企業調査レポート配信
- 日本証券新聞、株主手帳による会長インタビュー記事掲載
- IR公式SNSアカウント（note）開設
- 決算短信他の英文資料開示
- 機関投資家とのコミュニケーション（個別会社説明の実施と継続的コンタクト）

将来見通し等に関する注意事項

- 本資料記載の業績見通し等、将来に関する記載については、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しております。
- 実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性を含みます。
上記の要因により、本資料は当社として記載の将来の見通しについて、その実現を約束するためのものではありません。
- 本資料で提供している情報に関しては万全を期しておりますが、その情報の正確性、確実性及び公正性を保証するものではなく、当社は掲載された情報・データの誤り又は不正確に関しまして、一切の責任を負うものではありませんのでご了承ください。

IRに関するお問い合わせ

株式会社ハークスレイ IR室



ir_info@hurxley.co.jp